裾野市史

第八巻　通史編　Ⅰ

題字　前裾野市長　市　川　　武

1 裾野市域全景

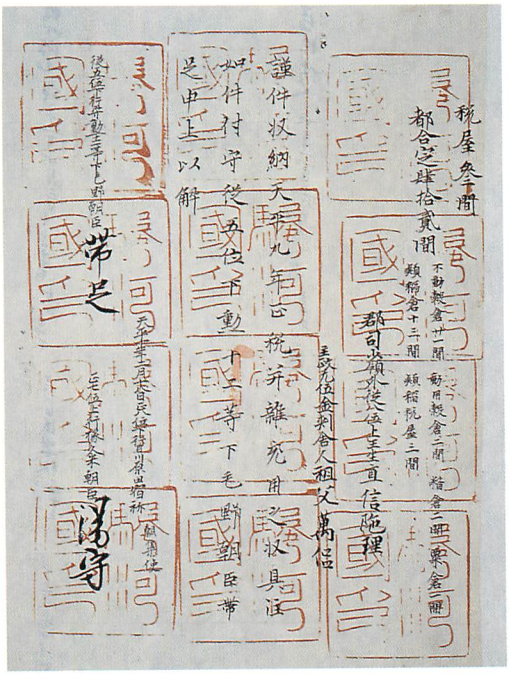
2　深良用水隧道入口

3　深良用水隧道出口(穴口)

4　佐野上ケ見遺跡出土　墨書土器

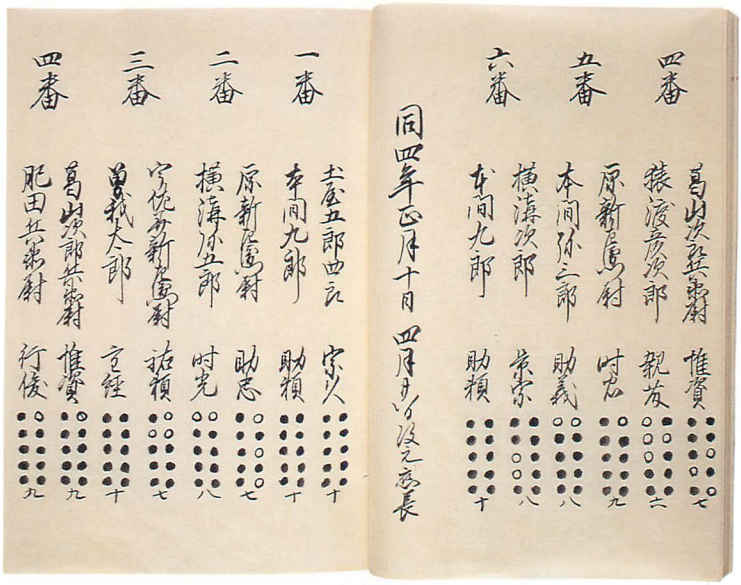
5　葛山居館址出土陶磁(12～15 世紀)

6　願性（葛山景倫）座像

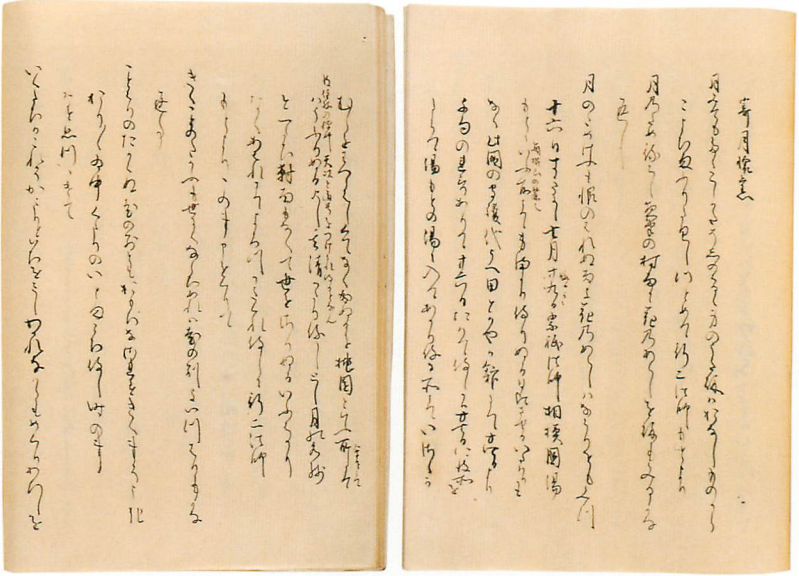


7　天平９年駿河国正税帳

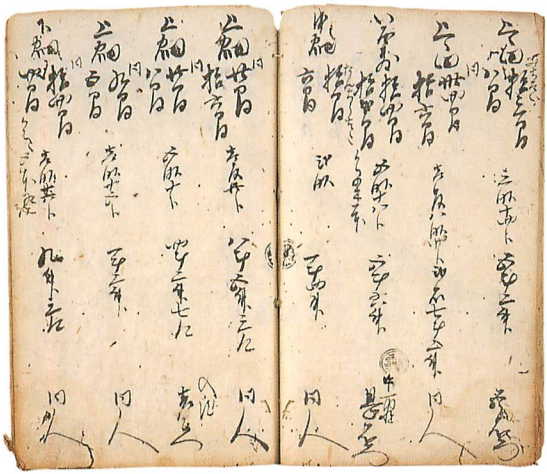
8　葛山城址景観



9 御的日記



10 再昌草



11　慶長４年御宿村検地帳（太閤検地帳）

12　11の裏表紙部分

13　愛鷹尾上牧陣笠

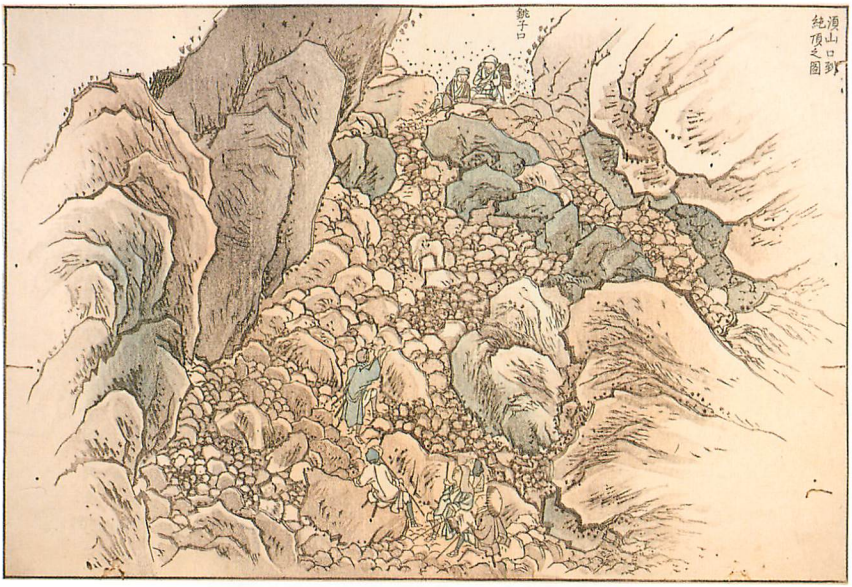
14　愛鷹尾上牧捕馬用烙印

15　深良用水開削時使用の鑿と行灯（伝）

16　江戸土産「江戸名所図会」

17　仮名手本忠臣蔵十一段目（香蝶楼国貞）

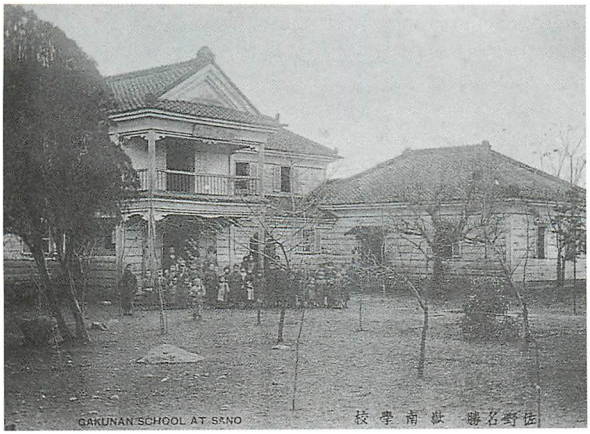
18　仮名手本忠臣蔵十二段目（同左）



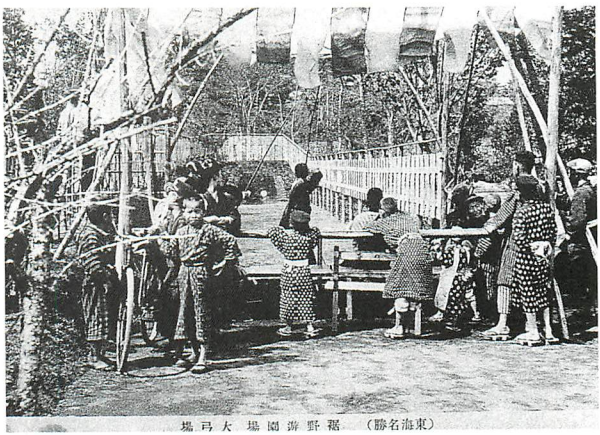
19　須山口到絶頂之図(弘化２年「冨岳寫眞」)

20　須山村童子請銭於参詣之人図(同上)

21　十里木村人汲水載頂之図(同上)



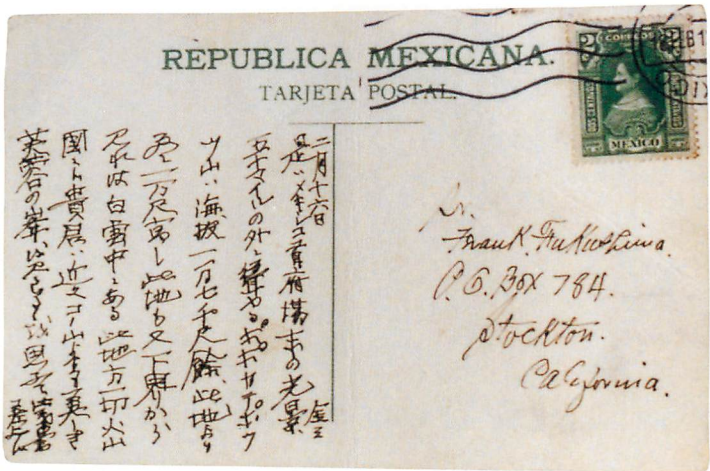
獄南学校



裾野遊園場　大弓場

佐野駅頭からみた富士山

22 「佐野名勝絵はがき」



23 「アメリカ」からの絵はがき(1900 年代前半)

24　佐野の入サ製糸所
(1923 年)

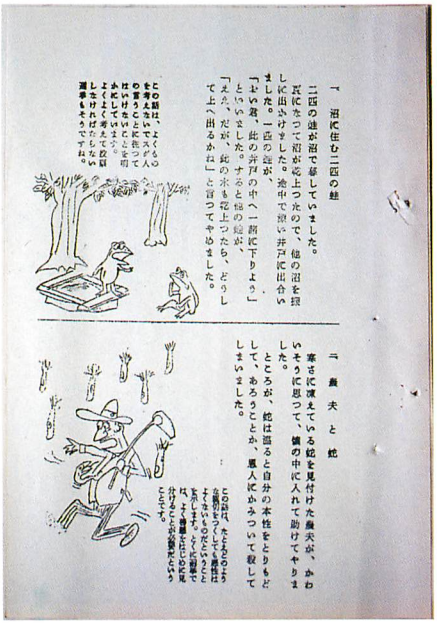
25　第 1 回国勢調査員
(1920 年)

26　関東大震災で損壊した中湯山家の倉
(1923 年)

27　御宿女子青年団
(1941 年 3 月 1 日)

28　二本松浅間神社祭禮
(1935 年)

29　人力ソリでの薪の運搬



一　沼に住む二匹の蛙

二匹の蛙が沼で暮らしていました。
長雨がつづいて沼が干上がったので、他の沼を探しに出かけました。途中で深い井戸に出合いました。一匹の蛙が、
「よい所、此の井戸の中へ一緒に下りよう」
といいました。すると他の蛙が、
「ええ、だが、此の水も干上がったら、どうして上へ出るかね」と言ってやめました。

この話は、よく考えないで人の言うことに飛つてはいけないことを明かにしてゐます。よくよく考えてから行動しなければならない選挙もそうですね。

二　農夫と蛇

寒さに凍えている蛇を見付けた農夫が、かわいそうに思つて、懐の中に入れて助けてやりました。
ところが、蛇は温ると自分の本性をとりもどして、あろうことか、農人に飛かみついて殺してしまいました。

この話は、たとえ人間のように教育されても、性はよくならないものだということを示しています。よく、悪事をたびたび見聞きしたり、よく、悪事をたびたびやるというようなことです。

30　選挙の心得を諭した「選挙とイソップ物語」(1966 年)

31　自衛隊総合火力演習(1999 年)

32　現在の裾野市の風景

発刊のことば

裾野市長　大橋俊二

昭和六十三年度本格的にはじまりました市史編さん事業は、郷土裾野の歴史に関連した資料の収集、調査に努め、その成果を様々な刊行物として送りだしてまいりました。全七巻にわたる資料編に続き、ここに「通史編Ⅰ」をお届けいたします。

『裾野市史』は、資料編「深良用水」「考古」「近現代Ⅰ」「古代・中世」「民俗」「近世」「近現代Ⅱ」の刊行を順次終え、通史編全二巻のうち、あと一巻を残すのみとなりました。

本書は、資料編で紹介いたしました資料やその後発見された新資料などをもとに、考古から近現代まで、本市の歴史がより具体的にあらわれるように工夫をこらしており、また地名・人名等にはふりがなをふり、写真・図表も多く用いて、読みやすく叙述しました。「通史編Ⅰ」は通史編の最初の発

刊にあたります。裾野の歴史が本書により、皆様の身近なものとなれば望外の喜びであります。私たちは過去の歴史から、裾野市の将来への手がかりを学びとり、その成果をよりよいまちづくりに活かしていく事が大切であると思います。

市史編さんという長期間にわたる大きな事業がこのように順調に進んでおりますのも、市民の皆様のご理解、ご協力があってのことと、改めて感謝申しあげるしだいであり、編集にあたられた各委員並びに関係各位に厚くお礼を申しあげます。

平成十二年三月

「通史編Ⅰ」刊行にあたって

裾野市史編さん専門委員代表　有光友學

一九八七(昭和六十二)年九月に始まった『裾野市史』編さん事業も、本年度(一九九九年度)でもって十二年有余が経過しました。この間、資料編として、第一巻「考古」、第二巻「古代・中世」、第三巻「近世」、第四巻「深良用水」、第五・六巻「近現代Ⅰ・Ⅱ」、および第七巻「民俗」の七冊を、ほぼ当初の計画通り刊行してきました。そして、ここに「通史編Ⅰ」を上梓する運びとなりました。引き続いて、「通史編Ⅱ」を刊行して編さん事業を閉じることとなります。

私どもは、当初、「通史編」を、原始・古代から中世・近世までと、近・現代との上下二冊に分けて刊行する予定でありました。しかしながら、限られた地域における歴史を機械的に時代を追って叙述するだけでは、地域の特色を描きだすことは無理ではないかと考え、「通史編Ⅰ」(第八巻)では、原始から近・現代に至るまで全時代を一書にして概観できるように、文字通り通史として刊行し、「通史編Ⅱ」(第九巻)では、地域の歴史を受け継いだ人々やその生活、またその舞台となった村落につい

て、テーマごとに時代を追って、あるいは横断的に書き表わし、その多様性と深みを浮き彫りにしようと考えるに至りました。ここに刊行する「通史編Ⅰ」は、そうしたわけで、この裾野市域において初めて人間の暮らしが営まれた時代から、変貌の激しい現代に至るまでの長い道程を明らかにしたものであります。

歴史を編むということは、言うまでもなく史・資料の裏付けのもとに今日に至る歴史を過去に遡って明らかにし、現在および将来の発展の糧とすることを目的とします。私どもは、編さん事業を始めるにあたって、次のような三つの方針を立てました。その一つは、確かな事実に裏付けられた客観的、学問的に信頼のおける歴史を明らかにする。第二には、地域に根ざした歴史、換言すれば、それぞれの地域で働き生活していた民衆の生きざまを明らかにする。第三には、裾野市域の歴史の特色を明らかにするとともに、日本全体の歴史のなかに位置付ける。以上であります。さらに付け加えれば、市民や読者の皆さんに親しみやすいものにしようと心がけました。これらのことが達成されているかどうかは、お読みいただく市民や読者の皆様の評価にゆだねざるをえませんが、私ども専門委員・調査委員および編さん室の職員達は、それぞれの専門や役割にしたがって情熱を傾けて取り組んだつもりであります。どうか本書を通じて地域の歴史に思いを馳せていただきたいと思います。

最後になりましたが、こころよく数多くの史・資料や情報をお寄せいただきました市民の皆様や関係各位、そして、財政事情の厳しい中にもかかわらず、物心両面にわたって支えていただいた行政当

局に対して厚く感謝申しあげます。

二〇〇〇(平成十二)年三月

凡　例

一　本巻は、『裾野市史』「通史編Ⅰ」として、旧石器時代から一九七一(昭和四十六)年の市制施行までを対象に叙述した。

一　本文の記述は、原則的に常用漢字・現代仮名遣いを使用した。ただし、専門的な用語については、必ずしもこの原則によらなかった。

一　人名・地名難読あるいは誤読の恐れのある語句は、各章の初出にできる限りふりがなを付した。

一　本文中の人名の敬称は、すべて省略した。

一　年号は西暦を用い、和暦を(　)で示した。

一　一八七二(明治五)年十二月二日以前は陰暦を用い、それ以降は陽暦を使用した。

一　本巻で使用した史・資料が『裾野市史』資料編に収録されているときは、原則として、(『市史』三－四五四号)のように表記した。『静岡県史』の通史編の場合は、(『県史』通4－八七六頁)のように巻数のあとに頁数を記し、同資料編の場合は、(『県史』資7－五三号)のように巻数のあとに資料番号を示した。ただし同近現代の資料編・通史編の場合は、ともに巻数のあとに頁数を記した。

一　引用史・資料は、本文中での引用は「　」を付し、長文の場合は本文から二字下げで示した。引用はできるだけ原本の体裁に従うことを原則とした。また、文中には適宜句読点を付した。

一　本文の叙述には多くの研究成果を援用したが、本書の性質上、典拠を省略した場合が多い。なお、とくに必要があって示す場合は、本文中に「　」で記した。

一　写真・図表は、編ごとにそれぞれ写真1－1・図表2－1のように一連番号を付し、巻末に掲載写真一覧、掲載図表一覧を示した。

一　執筆分担は、巻末に示した。

一　本書には、プライバシーにかかわる表現や現在からみると差別的な用語が用いられている場合がある。もとより、こうした不当な差別を容認するものではなく、それらの根絶の立場からその史実を認識する意味でそのまま掲載した。

一　索引は巻末に付した。

通史編Ⅰ　総目次

口　絵
発刊のことば　裾野市長　大橋俊二…一
「通史編Ⅰ」刊行にあたって　裾野市史編さん専門委員代表　有光友學…三
凡　例
通史編Ⅰ　総目次
口絵一覧
扉絵一覧
第一編　原始・古代……二九
第一章　裾野のあけぼの……三一
第一節　原景観の復原……三一

第二節　旧石器・縄文・弥生時代の裾野……三七
裾野に初めて人が住み始めた頃／裾野の縄文時代の特徴／弥生時代の裾野

第二章　古代の駿河……五七
第一節　スルガ国造とスルガ国……五七
国造制の成立と采女の貢進／巨大古墳の築造／稚贄屯倉と部民の設定
第二節　国郡制の成立と調庸の貢進……七二
国郡制の成立と駿河郡／駿河郡の郷里／調庸の負担／堅魚製品の貢進
第三節　富士山の噴火と荘園の設置……八五
阿気大神／富士山の噴火と信仰／大沼鮎沢御厨と大岡荘の成立
第四節　古代東海道の交通……九四
東海道の成立と駅制／駅の設置と駅路の変遷／横走の駅と足柄峠

第二編　中　世……一〇三
第一章　鎌倉幕府と大森・葛山氏……一〇五
第一節　源頼朝の挙兵と富士の巻狩……一〇五

源頼朝の挙兵／富士の巻狩／曾我兄弟の仇討ち
第二節　足柄路を往来する人々 …… 二六
交通路の発展／幕府の官道としての足柄路／処刑の場としての足柄路／文人・僧侶の往来
第三節　鎌倉時代の大森氏と葛山氏 …… 三六
大森氏と葛山氏の出自／幕府御家人としての大森氏と葛山氏／得宗被官としての大森氏と葛山氏
第二章　内乱の時代と大森・葛山氏 …… 三五
第一節　竹之下・佐野山合戦と南北朝内乱 …… 三五
鎌倉幕府の滅亡／竹之下・佐野山合戦と軍忠状／分郡守護石塔義房／内乱と葛山備中守
第二節　佐野郷にみる東と西 …… 四四
室町幕府と鎌倉府／佐野郷の寄進／大高氏と鎌倉府／佐野郷遵行と今川氏／国境地帯としての駿河郡
第三節　大森氏と鎌倉府 …… 五三
関東公方奉公衆大森氏／上杉禅秀の乱と箱根別当証実／永享の乱と箱根別当実雄／大森氏の小田原入城
第四節　葛山氏と室町幕府 …… 六一

室町幕府将軍奉公衆葛山氏／葛山氏の佐野郷安堵／葛山駿河守と駿河東部情勢

第三章　戦国の動乱と葛山氏 …… 一六九

第一節　戦国大名の登場と抗争 …… 一六九

北条早雲の登場／戦国の幕開けと駿河郡／北条・今川氏の同盟関係／今川義元の登場と葛山氏／河東一乱／駿甲相三国同盟

第二節　葛山氏の系譜と動静 …… 一八四

葛山氏広と氏尭／葛山氏元の出自と家族／河東一乱と葛山氏／長久保城の戦い／駿府における葛山氏

第三節　葛山氏の支配領域 …… 一九八

葛山城と周辺城址遺跡／葛山居館址と堀之内／葛山氏の支配領域／広基とは何者か

第四節　葛山氏の領域支配 …… 二一〇

家臣と領地支配／検地と貫高制／様々な村落／漁村と山村

第五節　葛山氏の滅亡と戦国の終焉 …… 二三三

今川氏の滅亡／北条氏と武田氏の抗争／葛山氏の滅亡／葛山信貞・御宿友綱／家康・秀吉の登場―戦国の終焉―

第四章　道をめぐる様々の動き …… 二三九

第一節　関・渡・宿の展開 …… 二三九
道路と交通／円覚寺と関所／渡と律宗、交通と勧進／黄瀬川宿と人の往来
第二節　交通の発展と伝馬制 …… 二四六
戦国期の交通路／葛山氏の交通政策／今川氏伝馬制の成立／神山宿問屋武藤氏／茱萸沢宿問屋芹沢氏／武田氏の伝馬制
第五章　中世の宗教・文化の様相 …… 二六一
第一節　仏教信仰の浸透 …… 二六一
駿河郡域における諸宗派の教勢／市域における教勢
第二節　宗教者来訪の伝承と事跡 …… 二六八
空海来訪の伝承／日蓮の来訪と霊場の成立／一遍・遊行上人の来訪と佐野蓮光寺／仙年寺開山光岡について
第三節　禅宗寺院の動向 …… 二七七
定輪寺・普明寺の開創／僧侶の対立／信濃の「揚天宗播」とその後の定輪寺／普明寺僧侶の進退
第四節　神社と民衆の信仰 …… 二八八
駿河郡域および市域における神社／民衆の信仰と伝承

第五節　富士実景歌と宗祇……二九四
詠み込まれた富士の歌／連歌師宗祇の葬送

第三編　近　世……二九七

第一章　江戸時代の幕開け……二九九

第一節　近世初期の領主たち……二九九
豊臣系大名中村氏の支配／慶長・元和期の大名と代官／駿府徳川藩の支配／沼津代官の支配／支配文書の整備／稲葉氏小田原藩の支配

第二節　近世村の成立……三二六
中村氏の太閤検地／横田村詮の村落支配／慶長九年・十四年検地／小田原藩の慶安元年検地と延宝五年検地／正保郷帳と村高／深良用水の完成と寛文・延宝検地

第三節　深良用水の開削……三四二
深良用水の名称／一七世紀の新田開発／発企人と元締衆／箱根神社への立願／開発手形の提出／隧道の開削／隧道の竣工と新川の普請／用水堰の整備／元締衆の資金回収／用水権の幕府接収

第二章　村落支配の展開……三七七

第一節　近世中・後期の領主たち……三七七
元禄地方直しと裾野／旗本領の支配／藩領の支配／幕領支配（野村代官以後）
第二節　村々の諸負担……四二五
近世の年貢／さまざまな役負担
第三節　災害と村々……四三六
元禄大地震／宝永元年の大雨被害／宝永四年の富士山噴火／天明の飢饉／竹の実と飢饉／不思議な痢病流行／天保の飢饉／嘉永七年（＝安政元年）の大地震／安政三年の台風被害／野生動物と村々／災害に備える
第三章　村の機能……四六一
第一節　村とは何か……四六一
村の開発／組と新田／村役人／名主と寄合
第二節　村の運営……四七四
村の公文書／村入用／村法
第三節　村の事件……四八五
近世前期の村方騒動／近世中後期の村方騒動／名主の入札
第四節　深良用水の維持・管理……四九六

小長谷勘左衛門の改革／国役普請と自普請／宝永の水論／安永の水論／水論の裁許と制度改革

第四章　産業と流通 …… 五一九

第一節　諸産業の発達と愛鷹牧 …… 五一九

品種の多様化／村明細帳にみえる産物／炭焼き・木地挽き・塗師／小竹の売買／酒造／愛鷹牧

第二節　村の金融と互助 …… 五三四

土地の売買や質入／さまざまな無尽／領主の講・村人の講／報徳仕法の導入

第三節　交通と流通 …… 五四二

さまざまな交通路／助郷と負担／朝鮮通信使・琉球慶賀使の通行／箱根関所と裾野の村々／分一番所とその機能／甲州往還の口銭訴訟

第四節　入会争論 …… 五六二

大野原の利用／その他の山野における村境争論・入会争論

第五章　村人の生活 …… 五七三

第一節　村に住む人々 …… 五七三

村の身分／村と内外／村に来た人／村の職人

第二節　村の生活と村人……五八六
若者と若者組／村の子供／村の女性
第三節　儀礼からみた家と村……六〇六
ライフサイクルと家族儀礼／村々の行事
第六章　村の文化と信仰……六一九
第一節　村の教育……六一九
裾野市域の筆子塚／富沢村渡辺家の「童児教訓書」／開発名主の手習い師匠／漂泊の師匠
柳澤文溪／柳澤文溪の教育／村の行政相談／文溪と村方復興策
第二節　村の文化……六三三
宗祇翁三百遠忌と裾野／裾野の俳人たちの宗祇三百年遠忌／俳諧から国学へ／辞世と村の文化
第三節　村の信仰……六四三
宗門改と檀家制度／御宿村の寺檀関係／茶畑村願生寺／村のアジール／茶畑村の神社／氏神と村／深良村の吉田神社の勧請／村を訪れる宗教者―唯念／信仰の旅／太々講の伊勢参り／太々神楽献立
第四節　富士山をめぐる信仰……六六四
須山口の始まり／御師という職分／須山口登山道／近世の須山村／庚申縁年と導者／寛政

の御縁年／万延元年（＝安政七年）の御縁年／冨士峯修行と裾野／須山口の終末と再生

第七章　幕末期の村々 …… 六九一

第一節　村の変質と村方騒動 …… 六九一

豪農と小前／村々の窮乏／村方騒動の続発

第二節　黒船の来航とその影響 …… 七〇四

異国船来航と負担の増大／大地震の発生／「ころり」の流行と不安の増大

第三節　長州征討と松井庄左衛門 …… 七二

大坂へ立つ／大坂での生活／松井庄左衛門の仕事／駿州深良陣屋との連絡／江戸・駿河への帰還

第四節　戊辰戦争と村の対応 …… 七一九

「世直し」の到来／幕府の崩壊と戊辰戦争の発生／小田原藩の農兵取り立て／官軍の東征と村々の対応／深良陣屋の明治維新

第四編　近　現　代 …… 七二七

第一章　近代化と地域社会の再編成 …… 七二九

第一節　暮らしの風景 …… 七二九
暮らしのなかの明治／佐野の滝と五龍館／富士山須山口
第二節　行政区画の変遷と村 …… 七三三
裾野市域の村々／戸籍区から大区小区制へ／静岡県第一大区三小区／「区内会議」構想／地方三新法と町村会／官選戸長管轄区域
第三節　地租改正と村の生業 …… 七四四
地租改正とは／裾野市域の地租改正／官民有区別と裾野の入会林野／村の生業／さまざまな職人と職業
第四節　近代の窓としての教育 …… 七五四
湯山半七郎と小学校教育の推進／小学校校舎の設立と統合／教導職の説教と夜学の設置
第五節　裾野の自由民権運動 …… 七六三
豪農の潮流／湯山半七郎／新しい世代／世代、諸潮流の混在／愛郷社の設立／愛郷社と地方民会／岳南自由党の発足／尚義会の結成準備／貧民党騒擾／柳雄の建白書／その後の民権派
第六節　村と戦争 …… 七七七
西南戦争／徴兵忌避
第二章　帝国日本と地域村落 …… 七八一

第一節　暮らしの風景 …… 七八一
制度としての暮らし／暮らしに見る伝統と近代の相克／明治の終焉―天皇制と民衆
第二節　明治町村制下の村 …… 七八七
「町村制」の公布／明治町村大合併／深良村・泉村の誕生／須山村富岡村組合村とその解消
第三節　明治後半期の村々 …… 七九三
愛鷹山の民有払下げ運動／裾野という〝地域〟／須山村／富岡村／小泉村／泉村／深良村／経済環境の整備／鉄道の開通／逆川事件／農会の設立／明治末の村々／地方改良運動／農村の小工場
第四節　教育の確立と拡充 …… 八一三
村立小学校の成立／教育勅語と御真影／教育活動と教育内容の拡充／嶽南小学校をめぐる紛争（一）／夜学と実業補習学校／青年会の組織化と図書館の設置
第五節　村と戦争―日清・日露戦争 …… 八二五
日清戦争／歩兵第三四連隊／大野原演習場／日露戦争／在郷軍人会／軍事郵便／戦病死者
第三章　裾野の一九二〇年代（一九一四～一九三〇） …… 八三五
第一節　暮らしの風景 …… 八三五
伝染病と衛生／貧困と移民／鉄道・国勢調査・時間／関東大震災と裾野

第二節　地域経済圏の形成と地主制、米騒動　……八四三
大正期の五か村／須山村／富岡村・深良村／泉村／小泉村の人口動向／小泉村の発展／地域経済圏の形成／地主制の展開／米騒動と五か村
第三節　大正デモクラシー下の教育　……八五四
新教育と公民教育／嶽南小学校をめぐる紛争（一）／公民学校と青年訓練所／青少年団活動と村民教化
第四節　岡本利吉と農村青年共働学校　……八六五
岡本利吉と農本主義／葛山の農村青年共働学校／農村青年の思想
第五節　「大正デモクラシー」状況下の地域政治　……八七七
富岡村の村内対抗／「南部」大字の分離独立請願／泉村の部落有林野統一事業／泉村「騒擾」事件／和解と部落有林野統一政策のゆくえ／大正期の行財政／民力涵養
第六節　村と戦争　……八九三
演習場と人々の暮らし／第一次世界大戦／村の兵士と在郷軍人
第四章　十五年戦争と裾野の人々―村と戦争―　……八九九
第一節　暮らしの風景　……八九九
昭和恐慌下の暮らし／経済更正と生活改善／出征の風景／銃後の暮らし／物価上昇と物資統制／〝愛国美談〟という神話／戦争プロパガンダ／国民精神総動員のための生活改善／

「戦時生活様式」とは何か／おびただしい死者たち

第二節　昭和恐慌から戦時経済へ　……九三六

昭和恐慌の発生／村々の恐慌／須山村と小泉村、一九〇四年／須山村と小泉村、一九一五年／昭和恐慌期の須山村、小泉村、泉村／遅れる対応／救農議会／納税組合／景気回復／小作争議／自作農創設維持事業／地域経済の戦時編成

第三節　「皇国民」教育への道　……九四九

恐慌下の教育／戦時体制下の学校教育／教師の教化と錬成／戦時体制下の勤労奉仕作業／綴り方教育の浸透／青年団の活動と青年学校／満蒙開拓青少年義勇軍と少年兵

第四節　地域にとっての翼賛体制　……九七三

大衆の時代の幕開け／「皇国ノ興廃コノ一票ニアリ」／区・最寄・組／日中全面戦争／地域にとっての翼賛体制／翼賛壮年団と戦時生活／戦時中の最寄のすがた／敗戦

第五章　「占領」から高度経済成長へ　……九九五

第一節　暮らしの風景　……九九五

占領下の暮らし／混乱のなかの自由／健康保険と伝染病の減少／TV・電気洗濯機・電気冷蔵庫／工場誘致と新住民／交通戦争と公害

第二節　占領と民主化のなかの地域政治　……一〇〇〇

敗戦の風景／「占領」の開始／戦後処理と戦後村政の課題／それぞれの「民主化」へ／憲

法・地方自治・政党／「部落会」廃止と最寄のすがた／占領から講話へ／裾野町の成立

第三節　経済の再建と地域の変貌……一〇一五

敗戦前後の農業・農村／供出と配給／農地改革の開始／裾野市域の農地改革／農業協同組合の発足／工場誘致／トヨタが町にやってくる／地域の変貌

第四節　戦後教育の出発と変容……一〇三一

民主教育の発足／高度経済成長と学校／戦後の社会教育／学生会と青年団の活動／青年学級の開設／保育所と町立図書館の開設

第五節　町村合併と地域政治……一〇五三

町村合併政策の始動／「裾野」をめぐるかけひき／「開発」と農村合併／「夢のかけはし」／合併をめぐる緊張関係／北・御殿場か南・裾野か／裾野市域の形成／農村開発政治の地域基盤／工場誘致と「自治」の再編／高度成長と最寄のすがた

第六節　基地問題のゆくえ―村と戦争……一〇七八

束の間の解放／マッカーサー・ライン／「未曾有の受難期に際会」する／アメリカ軍への協力という選択／米軍演習場自治協力団から補償運動へ／占領終結と演習場／演習場をめぐる諸運動の展開／アメリカ軍から自衛隊へ／東富士演習場地域農民再建連盟／使用協定と三首長協議会構想／基地問題のゆくえ

あとがき　裾野市史編さん室長　杉山幸彦…一一〇四

裾野市史関係者一覧……一一〇六

掲載図表一覧……二二七
掲載写真・所蔵者一覧……二三七
口絵写真・所蔵者一覧……二三九
干支順位表、方位・時刻表……二三〇
年号一覧……二三四
索引……二四四

口絵一覧

一　裾野市域全景
二　深良用水隧道入口
三　深良用水隧道出口（穴口）
四　佐野上ヶ見遺跡出土　墨書土器
五　葛山居館址出土陶磁（一二～一五世紀）
六　願性（葛山景倫）座像
七　天平九年駿河国正税帳
八　葛山城址景観
九　御的日記
一〇　再昌草
一一　慶長四年御宿村検地帳（太閤検地帳）
一二　一一の裏表紙部分
一三　愛鷹尾上牧陣笠
一四　愛鷹尾上牧捕馬用烙印
一五　深良用水開削時使用の鑿と行灯（伝）
一六　江戸土産「江戸名所図会」

一七　仮名手本忠臣蔵十一段目（香蝶楼国貞）
一八　仮名手本忠臣蔵十二段目（香蝶楼国貞）
一九　須山口到絶頂之図（弘化二年「冨岳寫眞」）
二〇　須山村童子請銭於参詣之人図（弘化二年「冨岳寫眞」）
二一　十里木村人汲水載頂之図（弘化二年「冨岳寫眞」）
二二　「佐野名勝絵はがき」
二三　「アメリカ」からの絵はがき（一九〇〇年代前半）
二四　佐野の入ヵ製糸所（一九二三年）
二五　第一回国勢調査員（一九二〇年）
二五　関東大震災で損壊した中湯山家の倉（一九二三年）
二七　御宿女子青年団（一九四一年三月一日）
二八　二本松浅間神社祭禮（一九三五年）
二九　人力ソリでの薪の運搬
三〇　選挙の心得を諭した「選挙とイソップ物語」（一九六六年）
三一　自衛隊総合火力演習（一九九九年）
三二　現在の裾野市の風景

口絵写真二・三・八・一一～二二撮影　堤　勝雄

扉絵一覧

一　裾野のあけぼの
二　川と郷
三　村のある風景
四　暮らしのある風景

扉絵作者　裾野市立鈴木図書館名誉館長　鈴木芳子